

日新
 苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
 日日新 ひ び あら 日々に新たに
 又日新 また ひ あら 又日に新たなり
 出典 「大学」

日新地区だより 33号



ゆめ
 にっしん

「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：地域の誇り・まちづくり日新広報部会
 文京5丁目1-8 日新公民館
 発行日：平成27年(2015年)3月20日

日新さんさんバス

本格運行 当確か！

あと数日 多くの乗車を…

平成24年11月から運行を始めた「さんさんバス」は、乗車人数の確保がままならない状態でした。しかし、運行経路と運行時間を変更した昨年の平成26年5月10日以降は急速に増加。本格運行への望みを繋ぎました。その後、7月に新記録を達成。さらに、気候が悪くなった本年1月には、乗車人数の最高記録を更新するなど、関係者の予想を覆す好成绩が続出しました。

この結果、これまでの乗車人数や収支率の減少分も補充することができ、福井市の査定数値規定を2月までは完全に達成させたのです。あとは、この3月単独で800人の乗客を確保すれば、本年10月1日からの本格運行が現実となるのです。

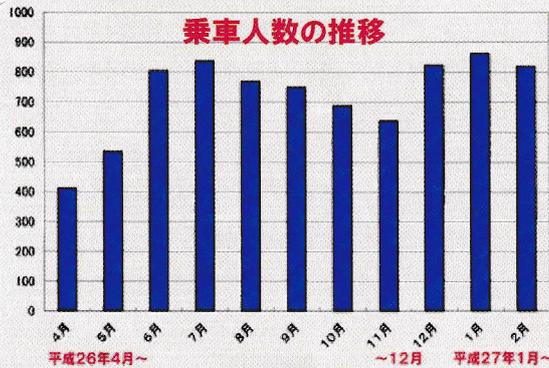


ご乗車にご協力をお願いします！

交通部会

部会長 山口 満

現在運行されているさんさんバスは、本来、一昨年度(24年度)からの乗車人数実績の判定では25年9月末で廃線となるべきところでした。ですが、昨年5月のコースと時刻を変更したことによる乗車人数の急激な増加で廃線を返上し、26年3月まで再度、試行運行という形で継続運行されているものです。



更新を続ける乗車人数は本格運転への道

その後も順調に増加を続け、7月には834名と過去最多を記録。10月、11月は600人台に落ちたものの、12月には再び800人台を確保し、1月には、過去最高だった7月の834人を大きく上回る860人と新記録を更新し、乗車人数を着実に延ばしています。

特に、外出が億劫となる冬場のシーズン中に最高記録を更新した事に関して、地域住民の方々、さんさん会の皆さん、まちづくり役員(サポーター)の人達によるバス事業成功の為の惜しみない後押し等に対し心よりのお礼を申し上げたいと思います。

さらに、朝から大雪警報が出され、積雪も20cmぐらいで、さらに低温が重なり、外出するには最悪の状況だった2月9日(月)にも、座席がほぼ満席の35名ぐらいのお客様が乗車されていました。本当に心強く、うれしく思いました。言い尽せない感謝の気持ちでいっぱいです。

残り数日！最後の便までご乗車を！！

お客さま一人一人の楽しい顔と顔、雑談を大きな声で交わす人と人、より良き人間関係から、良き成果が生まれるものと思います。この事が、今事業、コミュニティーバスの本格運行は絶対に成し遂げなくてはと強い意識をもった理由です。そして、今日まで、活動をやってこられた理由でもあります。

残るは数日ですが、最後の一台まで乗車して頂くようご協力をお願いします。

「一月行く、二月逃げる、三月去る」といわれます。つい先日、馬年から羊年へ移行がウマくいったと思っていたら、早いものでもう卒業式シーズンを迎えました。私も昨年出会った子ども達とお別れです。学校の教職員にとって卒業式は特別な日です。6年生の担任は勿論、この学年を受け持ったことのある先生ならなおさらです。卒業間近ともなると、子ども達は心身共に劇的な成長を見せます。思春期に入る頃であり、また新しい世界へ飛び込んでいく期待と不安からでしょう。私は毎年のように卒業式をしてきましたが、毎回感動を覚えます。ましてや卒業生、保護者の方々にとっては一生に一度の小学校卒業式です。厳粛な卒業式は、教職員と在校生が卒業生・保護者の皆様へ贈る最後のプレゼントだと思っています。証書を手にした子ども達の誇らしげな顔は、6年間が彼女等・彼等にとって充実したかけがえのない時間だったことを感じさせてくれます。私はその姿を見送りながら、「よくがんばったな！おめでとう。」という思いと、「これから苦労も多いが強く生き抜いていってくれ。」という思いが交錯します。



厳粛な卒業式は大きなプレゼント

卒業式は長い歴史の中で、対面式を採り入れたり、式歌がオペレッタ式になったりして少しずつ変わってはきましたが、厳粛な卒業式はこれからも変わることはないでしょう。卒業証書にも神経を使います。氏名は略字体ではなく戸籍の字体で書きます。卒業証書、じっくり見てくださいね。ご卒業おめでとうございます。そして子ども達を見守ってくださった地域の皆様、ありがとうございました。



「卒業おめでとう！」

（写真は昨年度のもの）

卒業証書にも神経を使います。氏名は略字体ではなく戸籍の字体で書きます。卒業証書、じっくり見てくださいね。ご卒業おめでとうございます。そして子ども達を見守ってくださった地域の皆様、ありがとうございました。

文化部会

百人一首かるた会 開催

部会長 山崎 豊

平成27年の活動は、「百人一首かるた会」で幕を開けました。1月31日土曜日朝、雪模様のなかを総勢67名もの人達が集まり、午前10時に開始。ひまわり児童館からも多くの児童が参加してくれました。往復とも「さんさんバス」を利用するという事で、バスの時刻に合わせて「百人一首かるた会」の短縮も考えましたが、最後まで無事出来ました。さらに、恒例のカレーライスも食べる事もでき、12時のバスで無事に帰途につくことが出来てよかったと思います。



大勢で楽しみました

食事中に表彰式を行いました。優勝者は次の方々です。子供の部の「坊主めぐり」では大坂祐太さんが、「日新かるた」と「百人一首」では齊藤しらねさんがそれぞれ優勝。一方、大人の部では、「坊主めぐり」で坂本健雄さん、「日新かるた」では村中恵子さん、「百人一首」では吉川博美さんがそれぞれ優勝しました。



ありました！！

帰りに、子どもたち全員に参加賞のお菓子が配られ、大喜びしていました。少し慌ただしい感じはありましたが、成功だったと思います。

帰りに、子どもたち全員に参加賞のお菓子が配られ、大喜びしていました。少し慌ただしい感じはありましたが、成功だったと思います。

いきいきライフセミナーの

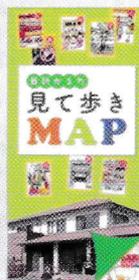
『日新かるた』シリーズ完結！

15ヶ所に解説看板

いきいきライフセミナー（郷土学習事業）では、郷土の魅力を再発見する事を目的に作成した『日新かるた』（平成21年度）を皮切りに、公民館前に立つ大きな『日新かるた探訪マップ』（平成24年度）、さらに『かるた』で紹介されている日新地区の名所とその散策コースを掲載したポケット版地図『日新かるた見て歩きMAP』（平成25年度）を順次作成してきました。そして、平成26年度の今回、『日新かるた』を基に解説看板を製作。この看板は、『日新かるた見て歩きMAP』から15ヶ所を厳選して立てられ、かるたの読み句とその場所の謂われなど解説が書かれています。



の魅力を再発見する事を目的に作成した『日新かるた』（平成21年度）を皮切りに、公民館前に立つ大きな『日新かるた探訪マップ』（平成24年度）、さらに『かるた』で紹介されている日新地区の名所とその散策コースを掲載したポケット版地図『日新かるた見て歩きMAP』（平成25年度）を順次作成してきました。そして、平成26年度の今回、『日新かるた』を基に解説看板を製作。この看板は、『日新かるた見て歩きMAP』から15ヶ所を厳選して立てられ、かるたの読み句とその場所の謂われなど解説が書かれています。



こうして平成21年度から始まった『かるた』シリーズは、今回の解説看板で完結することになりました。いきいきライフセミナーのメンバー13人は、2～3人の入れ替えはあったものの、大半の人は当初から携わり、精魂込めて作成にあたってただけに感慨深げでした。



こうして平成21年度から始まった『かるた』シリーズは、今回の解説看板で完結することになりました。

いきいきライフセミナーのメンバー13人は、2～3人の入れ替えはあったものの、大半の人は当初から携わり、精魂込めて作成にあたってただけに感慨深げでした。



乾徳ポンプ場



大きな高い建物です

福井商業高校（福商）の北側、底喰川の左岸にそびえ立つ茶色の大きな建物は乾徳ポンプ場です。ビルディングの5階～6階建てに匹敵する高い建物ですが、内部は4階です。地下に1フロアありますから、地上4階地下1階といったところです。

乾徳ポンプ場とは、福井市の下水処理施設の一つで、名前の通りポンプが置いてある場所なのです。

私たちが生活して行く上で出される排水・汚水は、地下に埋設された排水管からポンプ場を経由して汚水処理施設・浄化センターに送られます。ですが、普通の流れだけではそこまで行き着けません。そのため、排水・汚水に圧力をかけて圧送してやらねばならないのです。それがポンプ場の役割なのです。乾徳ポンプ場には4機のポンプが設置されており、1日に2万トンから2.5万トンもの排水・汚水を圧送しているのです。ですが、福井市のポンプ場では、どこも排水・汚水の浄化処理はしていません。砂やごみを除去するだけです。この近辺での汚泥処理は、境浄化センターや日野川浄化センターで行われています。



4機のポンプが並びます

このように、ポンプ場は、私たちが清潔な生活を維持するために、浄化センターと同様重要な役割を担っているのです。20あるポンプ場のうち19のポンプ場は無人で、福井市の大瀬橋近くの大瀬ポンプ管理センターで遠隔操作されていますが、定期点検の時はもちろん雨量が多くなった時など緊急時には職員が配置に動き対応するとの事です。

また、乾徳ポンプ場の北側、底喰川の対岸には、上里ポンプ場があります。このポンプ場も乾徳ポンプ場と同じ役割を担っています。日新地区には2つのポンプ場があるのです。

環境部会

環境保全功労者として表彰

副部会長 前川 栄寛

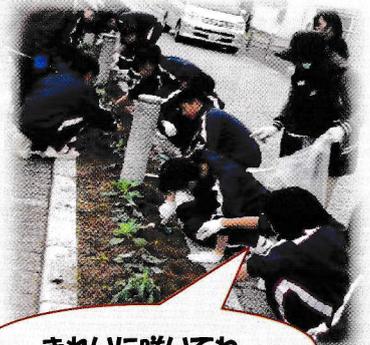
平成26年度の、環境部会の活動も3月末の定例清掃を残してほぼ終わることになります。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

部会の美化活動・環境意識の高揚等の取り組みとして、定例清掃・一斉清掃や学習会などを実施してきました。

定例清掃・一斉清掃は、部会のメイン活動で、多くの地区民のご協力はもちろんですが、子どもさんや青少年の参加も増えています。昨年に続き福商生244名が、そして今年は藤中生120名もこの活動に参加してくれました。念願の美化維持活動のすそ野の拡大に力をもらっています。ただ、こうした取り組みは、他の地区との連携が必要だと痛感しています。特に底喰川は一雨来るとまた元通りになってしまうからです。

一方、学習会は、環境とその保全を認識してもらうことを目的に昨年に引き続き開催しました。このうち、いきもの観察は、底喰川河川敷内外に生きる魚など生き物や草花を子どもの目線で観察し、生態系を学ぶとともにスケッチをしてもらいました。体験を通した学習は必ずや心に残っていくものと思います。なお、スケッチ作品は、公民館に「暈表の裏面」しています。是非見に来て下さい。

日新地区のこれらの取り組みに、福井市より26年度の環境保全功労者として選ばれ表彰されました。この表彰は、日新地区民の環境・美化維持の尽力に対するもので、皆さんとともに喜びたいと思います。新年度もきれいなまちづくりに取り組むつもりです。皆さんのさらなるご協力をお願いします。



きれいに咲いてね

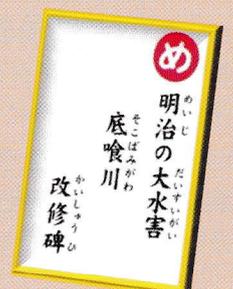


所在地：乾徳1丁目。
〔郷土の魅力再発見〕日新かるた「解説書より」

底喰川は、下流でいちじるしく曲がっていたことから、わずかの雨でも水害が発生し、住民を苦しめていました。明治30年（1897）に有志が底喰川水害予防組合を組織し、改修工事が着手されました。7年の歳月をかけ、工事が完成しました。このときの偉業を碑文にし後世に伝えていきます。

明治の大水害 底喰川改修碑

日新かるた紹介（7）



協力: 福仁会病院

日本人に多い病気

- ◆ 高血圧 ◆ 糖尿病 ◆ 癌
- ◆ 動脈硬化による心臓病や脳卒中

これらの病気はライフスタイルと密接な関係



認知症について

急速な高齢化により大きな社会問題となっています

家族の見守りやお隣り同士の声の掛け合い

早めの治療を
しましょう！

一年に一回は
受診しましょう！
▼ 地域での集団検診
▼ 職場などでの健康診断

★ 生活習慣の見直し
★ 生活習慣病の予防

- 住み慣れた地域で安全で安心な生活が送れる環境の整備
- 「認知症かな？」と本人や周囲の人が気付いたら早めに受診を！

講演会 開催

～参加者40人余～

広報部会主催の講演会が、2月21日午後7時から日新公民館で開催されました。

テーマは、「住民主体のまちづくり」。講師は、福井大学地域共生プロジェクトセンター・助教の田中志敬さんと福井市市民生活部まちづくり・国際課課長の桑原浩明さんのお二人。

講演内容は、住民が自分たちの手でまちづくりをしていくという立場から、田中さんは、京都市や福井市での今までの体験をもとにした具体例を基に説明。



熱心に聞き入る参加者の皆さん

一方、桑原さんは、「第六次総合計画」に掲げられている福井市のまちづくりの取り組みについて解説をしました。



参加者は、46人を数え、最後まで熱心に聞き入っていました。

ご寄稿ありがとうございました

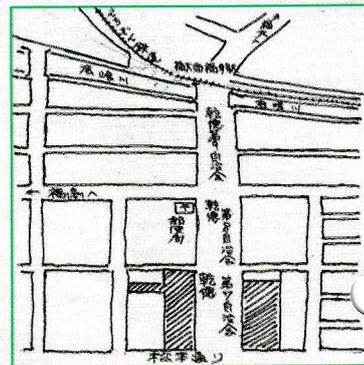
福仁会病院のスタッフの皆様、26年度の『いつまでも元気で』の4回分に、ご寄稿いただきありがとうございました。今回は最後のご寄稿となりました。限られた文字数で、適切かつ貴重な健康アドバイスを日新地区の方々にお教え頂きました。心からお礼申し上げます。

わがまち自治会

高齢化でも力強くまちづくり

乾徳第7自治会長 宮崎 誠一

私たちの乾徳第7自治会は、えちぜん鉄道福大前西福井駅の前から松本通りに抜ける乾徳(大)通りの一歩南側に位置しています。福大前西福井駅から南へ乾徳第9、乾徳第8、乾徳第7と自治会が並び、およそ、通りを挟んだ両側がそれぞれの自治区域となっています。



昭和の時代には、この乾徳通りや福商通り、さらに乾徳町内の商店が乾徳商店街を構成し、大いに賑わいを見せていました。その流れを毎年、乾公園での夏祭りに見る事が出来ます。今は、自治会の皆さんの努力の賜ですが、その時代の祭りは、商店の皆さんと住民の方々が一体となって開催されていました。物資が少ない時代であり、祭りのこの日ばかりは大いに食べたりしたものです。懐かしい思い出の1つでもあります。



しかし現在は、私たち乾徳第7自治会にも高齢化の波が押し寄せ、また少子化現象の影響もあり町並みには寂しさが窺えます。ですが、地域を守るため、19世帯が連携して出来る限りの活動を行っていきたいと思っています。